

山本 剛・GON 水橋 孝

Japan Jazz Great Piano Trio⁺²

Vol. I

2023. **5.27** SAT
17:45open 18:30start

レジェンドミュージシャンによる最高のライブステージ



山本 剛



GON 水橋 孝



大友 義雄



江藤 良人



渡辺 明日香

会場:レザンホール 中ホール 料金:全席指定4,000円(未就学児入場不可)

発売日:2/26(日) 10:00~

プレイガイド:レザンホール TEL.0263-53-5503 WEB <https://www.raisin.or.jp/>

主催:(一財)塩尻市文化振興事業団

後援:塩尻市/塩尻市教育委員会 企画・協力:健生院

※混雑を避けるため、発売初日の
窓口販売はしていません。
電話・WEB予約をご利用ください。



Piano 山本 剛

1948年3月23日、新潟県佐渡郡相川町に生まれる。すぐに佐渡島より新潟に移り、小学生の頃からピアノを弾き始める。

高校生時代、アート・ブレイキーとジャズ・メッセンジャーズの演奏の虜となりジャズ・ピアノを独学で習得する。日本大学経済学部に入学生が、その時の選抜で世田谷校と三島校があったが、田舎から出てきたばかりで土地がわからずに世田谷は東京の外れにあると思っていたので、思わず三島校を希望してしまい、一年間は静岡県三島の下宿生活をしましたが、私の音楽人生で多大な影響を与えた時期でした。

その後、妹が国立音楽大学に在学していた為、多摩地区の東中神にも住んでいました。そして千駄ヶ谷、仙台坂と現在は芝公園に移り住んでいます。

1967年、日本大学在学中、19才でプロ入り。ミッキー・カーティスのグループを振り出しに英国→欧州各国を来遊。

1974年、レコードデビュー(「ミッドナイト・シュガー」TBM)。スケールの大きなブルース・フィーリングとスイングするピアノがファンの注目を集め、続く「ミスティ」(TBM)が大ヒット、以後レコード各社より数多くのリーダー・アルバム、共演アルバムを発表、人気ピアニストの地位を確立する。

1977年、アメリカ、サンフランシスコ、モンテレー・ジャズ・フェスティバル出演。1979年、スイス、モントルー・ジャズ・フェスティバル出演。大好評を得、その後渡米、1年間ニューヨークで音楽活動を行う。

帰国後は、六本木のライヴ・ハウス「ミスティ」でハウス・ピアニストとして活動を再開。笠井紀美子、安田南等ヴォーカリストと共演する一方、ディジー・ガレスピー、カーメン・マックレイ、サム・ジョンズ、ビリー・ヒギンズ、エルビシ・ジョンズ、ソニー・スティット、スティーヴ・ガッド、エディー・ゴメスetc.多数の本場ミュージシャンと共演。

その間、英国のバタシー・パーク・ジャズ・フェスティバル、ニューヨーク独立記念日ジャズ・フェスティバル、コンコード・ジャズ・フェスティバル等に出演。

TV番組「リュウズバー(村上龍構成、出演)」の音楽を担当するなど各方面で活躍。



Bass GON 水橋 孝

1943年3月2日生まれ。

独自のテクニックと楽才に恵まれ、日本はもとより、アメリカ、ヨーロッパのミュージシャンの間で評判が高い。

世界的レベルの日本人ベーシストであり、水橋孝というよりも「GON、MIZUHASHI」のほうが通りがよい。(GONとは彼のニックネームである。)

GON MIZUHASHIを有名ならしめたのは、バックイングの正確さとともに、SOLOにおけるADLIBにみせる才能が抜きん出ているためであり、コラボレーションを崩さずに十分に自己を表現する能力と技量が何よりも高く評価されていることである。

水橋のことを「日本人の最もソウルフルな男」と称したのはハービー・ハンコックで、ハービーはGONのブルースフィーリングの素晴らしさを賞賛して「BLUES FOR GON」の1曲を彼に与えた。また、BASSの巨人ロン・カーターは、一緒にステージで共演した際、非常に感動し、水橋をステージの袖で待ち受け「YEAH! WONDERFUL MEN」と言いながら、水橋の手を大きな両手で握り締め、周囲を驚かせた。そして水橋のベースを「世界中で一番自分の音楽を持つベーシスト」と評して、ミッキー・タッカーは、レコーディングのために自費で水橋をニューヨークまで呼び寄せた。

この他、アーチャー・シェップは彼と三ヶ月に及ぶ、ヨーロッパのコンサートツアーのメンバーに招聘したことなど、GON MIZUHASHIの技量を求めて、グループ参加を誘う人々は枚挙にいとまがない。

日本国内においての活動としては、渡辺貞夫氏、日野皓正氏を始め、超一流から一流といわれる総てのミュージシャンとの共演がある、数少ない実力派ベーシスト。

また、ドラムのジョージ・川口氏とは、「ジョージ・川口&BIG4」の頃から、現在の「BIG4+1」にかけ、四半世紀以上に渡り共に活動しており、正に、ジョージ・川口氏の片腕的存在である。

現在は自己のトリオ、クワルテットでコンサート活動中。年に1度の「クリスマス・チャリティライブ」も今回9回目を迎える。その収益金は(財)日本ユニセフへ委ねている。

ジャパン・ベース・プレイヤーズ・クラブの会長を16年務めている。(2006年現在)



Saxophone 大友 義雄

1947年東京、3人兄弟の末っ子として生まれる。母親が小唄の師匠、兄弟がフルート、クラリネットを嗜むという音楽に恵まれた家庭に育つ。5歳頃ピアノを習い、中学校の頃からクラリネットを独学で習得。プラスバンドで演奏をする傍ら、慶星高校に進学と同時にサクソに転向、学園祭などでジャズの演奏を始める。日大芸術学部音楽科入学と同時に当時先輩だったクラリネットの花岡英二氏と知り合い、ジャズの演奏を本格的に開始する。後にピアノの板橋丈夫の目にとり彼のクインテットに参加、ジャズ界にデビュー。当時、板橋バンドには向井滋春、古野光昭、タイガー大越など若々たるメンバーが在籍、板橋と共に大きな影響を受ける。また、渡辺貞夫がパーカー音楽院の留学を終え帰国した際のライブを聞いて感動しプロとしての活動を決意、後に渡辺貞夫が開いた理論講座に参加、多くの事を学ぶ。

1960年代半ばに自己のグループを結成。サイドメンには常に時代の最先端のミュージシャンを選択、才能ある若手ミュージシャンを見極める大友の目は業界でも有名で、彼のグループから育って現在活躍しているミュージシャンは実に多い。

自己のバンドでの活動と同時に渡辺貞夫グループ、古沢良治郎等のバンドにも参加、活躍する。1974年には良きライバルであった土岐英史と共演した「ラバー・マン」でレコードデビュー、1年後初リーダー作「オー・フレンズ」を発表。1975年に「アズ・ア・チャイルド」、1976年には「ムーン・レイ」をリリース、アルト奏者として着々とその地位を築いていった。しかし、何といても大友の地位を決定づけたのは水橋孝グループでフォー・チャリングされたスリー・ブラインド・マイスのライブ盤「男が女を要する時」だ。これぞ大友の歴史的名演奏との賞れ高い名盤だ。2001年にもリニューアルされて再発売されているのをもみても分かるように、大友義雄節が遺憾なく発揮され正に圧巻の演奏だ。その活動が認められて1971年後半には新宿ジャズ賞を受賞。サクソ・プレイヤーとしての地位を不動のものとして常にスイング・ジャーナル誌の人気投票も上位を占めるようになる。

大友のプレイは自身が言うようにソウルフルで、時に熱く、時に切なく、「泣きのサクソ」といわれるほどその演奏は感情的で情緒的で磨きこまれている。近年、彼が音楽監督を務めた「レフト・アローン」が主題歌になった角川映画「キャバレー」は映画のヒットと共に大友のオリジナルによる音楽が話題となり大ヒットとなった。現在も若手の最先端のプレイヤーを率いて自己のグループを中心に活躍する一方、速達律子FRV、ジョージ・川口スーパーバンド等多方面にわたって活躍中だ。海外での演奏も多く、ニューカレドニア、中国、マレーシア、フランス、韓国、キューバ、コロンビア等で公演を行った。

また、渋谷ヤマハでジャズサクソのレッスンを任されており、アマチュアからプロまで後進奏者を育てている。常にクリエイティブな姿勢を崩さない大友の音楽に対する熱い情熱は特筆ものであり、今後も益々期待したいミュージシャンだ。



Drums 江藤 良人

1973年4月14日、三重県鈴鹿市生まれ。10歳からドラムを始める。

1994年 土岐英史(as)セッションでデビュー。

1996年から幸島文雄(p)トリオへの参加、本格的にプロ活動を開始。以後、池田芳夫(b)DADA、中本マリ(vo)グループ等に参加。

1998年、渡辺貞夫(as)バンドに参加。コンサート、テレビ、ラジオに多数出演。スイス・モントルー・ジャズ・フェスティバルに出演。

1999年 綾戸智絵(vo)「Friends」アルバム制作、ツアーに参加。

2002年、初リーダーアルバム「江藤良人/ANIMAL HOUSE」をリリース。

J-POPユニット「orange pekoe」のレコーディング、ツアーにも参加。

2003年、自己のグループ「a.t.m.」を結成。従来のジャンルにとらわれない方向性を追求。

2005年、故 Elvin Jones(ds)のトリビュートアルバムとして、2作目のリーダーアルバム「江藤良人/RAY」をリリース。

2006年～2015年まで「ルパン三世」の音楽で知られる作曲家/大野雄二率いる「Yui Ohno & Lupintic Five」に参加。

2011年、ギターサウンドを重点的に取り入れた3枚目のリーダーアルバム「江藤良人/Three-Act Play」をリリース。

2012年、井上陽介(b)、田中邦和(ts)と「Karate Chops」を結成。ライブツアー、コンサート継続中。

2015年、4枚目のリーダーアルバムとして待望の「Karate Chops」をリリース。

また、日野皓正(tp)、山下洋輔(p)、大西順子(p)、佐藤竹善(vo)、Lee Konitz(as)、Barry Harris(p)、Eddie Gomez(b)等と共演。

現在は自己のグループの他、井上陽介(b)カルテット、石井彰(p)トリオ、岡淳(ts)punch!、the EROS、NewYork=Tokyo Connection等に共演。

御茶ノ水NARUでの「江藤まつり」シリーズ、自由が丘Mellow Brown Coffeeライブ、新進鋭のミュージシャンを起用したリーダーセッションでは毎回高く評価されている。

柔らかくしなやかなで、繊細さと力強さを兼ね備えたドラミングが人々を魅了する。そこから生まれる心地良さ。聞き手はもとより、共演者にも絶大な信頼感をもたらす。



Vocal 渡辺 明日香

横浜に生まれる。4歳よりピアノを始め、中学、高校を通じて私立校の音楽科にてピアノ及びクラシックの音楽教育を受ける。卒業後、有線から流れていたジャズを聴いて開眼しピアノからヴォーカルへ転向、歌やジャズ理論を学ぶ。

都内のピアノバーでアルバイトを兼ねて歌っていたところそこで知り合ったピアニストに紹介され1998年に神村英男(tp)のレコーディングにゲストヴォーカリストとして参加。

その後あちこちの店で歌い始め、プロとして活動を開始すると注目を集め世良康、ジミー・竹内、前田憲男、日野皓正、ジョージ・川口、高橋達也等数多くのミュージシャンとの共演を果たす。

2001年3月、スイング・ジャーナル誌にNew Faceとして取り上げられ同年8月には同誌の特集記事にFMパーソナリティとの対談が掲載される。

2003年「要注目のミュージシャン」としてジャズ批評誌に登場。

そして同年10月、高橋達也プロデュースによる国民文化祭 ジャズフェスティバルに同氏のクインテットと共に出演、好評を博す。

2004年8月に待望のファーストアルバム「Unaffected」をリリースしHMVのジャズチャートにて1位を獲得。

同年12月、カナダ・トロントにて行われた日加修好75周年記念事業「Jazz Exchange 2004」に招聘され、カナダのトップミュージシャンらと共に老舗ジャズクラブ「Top O' The Senator」に出演。

また、東京FM衛星デジタルラジオMusic Birdのジャズ番組「オープンセサミ」のパーソナリティを2年半の間務める。

渡辺明日香2008年、楠松良高のアルバム「Dreamy」にゲスト参加。

2010年1月、全日本卓球選手権大会にて国歌を独唱。

現在は数々のセッションやレコーディングに参加し都内及び近郊のライヴハウスやホテルを中心に活躍中。



お問い合わせ

Raisin Hall

〒399-0738 塩尻市大門七番町4-8

TEL0263-53-5503 FAX0263-54-1103 <https://www.raisin.or.jp>

お客様へのお願い●本公演は新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で開催いたします。お客様には感染予防対策の趣旨をご理解いただきご協力をお願い申し上げます。